

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp

## 分館活動この一年

### 一年間の分館活動を振り返って ～コロナ禍での様々な活動の一端を紹介します～

#### 第一区 区民親睦会

分館長 小阪 祥一郎  
こさか しょういちろう



チャンスポール

11月1日、下諏訪体育館において第一区分館「区民親睦会」を開催しました。小さな子供から年齢を問わず、楽しみながら運動できるニュースポーツです。体育館を4区画に分け、グループ毎で時間を区切り回ります。競技種目は、下諏訪町発祥のチャンスポール、スマイルボーリング、ペタンク、子供たちには空き缶積み等です。感染防止の為、検温、消毒、更には用具に直接触れないよう薄手のゴム手袋を全員に配布しました。

当日は大人子供合わせて47人の区民が参加されました。その大半は初体験の方々です。

当初は順調に競技が進行する心配しましたが、開始してすぐに珍プレー、好プレーに拍手が沸き起こり、笑顔が絶えることなく無事競技が進みました。未就学の子供たちも家族に加わり競技を楽しんでいました。

分館として初の試みでしたが、参加者からは「楽しかった」等の声が多く寄せられ、開催して本当に良かったと思えました。



空き缶積み

#### 第二区 夏・冬の「寺子屋」

分館長 山田 貞幸  
やまだ せいこう



桜の城址

新型コロナウイルス感染症が世界中を席卷し、我が国においても猛威を振るい、きつい制約を受ける中で分館活動でしたが、全運営委員の英知を結集し、区民の皆さんに評価をいただいた多くの質の高い事業を行うことができました。その事業の一つが「寺子屋」です。

夏の「寺子屋」は子供たちが夏休み帳の中で分からない所や調べたい事を持ち寄り、運営委員や地域の方が優しく、解りやすく、子供たちの目線に立ち教えました。「解った！出来た！」の声が寺子屋に溢れました。その後全員で桜の城址に登りナレーション付きの解説書により金刺盛澄もりずみについて学び、そして下諏訪町を俯瞰し、諏訪湖、学校、駅などを見つめ歓声を挙げ、感動していました。

事業後「寺子屋」を継続したいという多くの声をいただき、暮れには「冬の寺子屋」を開催し、冬休みの宿題の「書き初め」の作品作りを行いました。子供たちと一緒に運営委員も童心に帰り筆を運びました。子供たちは各自個性豊かで味わい深い作品を完成させ、「やった！」の声と笑顔に運営委員全員大きな充実感を味わいました。沢山練習した紙は1月9日に行った分館主催の「どんど焼き」に子供たちが持ち参し、字の上達、健康を祈りお焚き上げをしました。

夏、冬の「寺子屋」は地域が子供を育てる、地域のコミユニケーションを深め住民が楽しく元気に暮らせることを目的とするという分館の大きな使命の一助になった事業であり、今後も開催の継続を切望しています。



書き初めの作品

## 第三区

### 注連飾り作り講習会

分館長 諏訪 敏和

いわゆる新型コロナウイルス感染症に翻弄された本年度でしたが、12月20日に開催された注連飾り講習会が第三区分館としては最初の行事となりました。



注連飾り作り

例年お世話になっている小口欣彦様御一家に御指導と材料手配をいただきました。

37名22組(内、常連が約3分の2)の参加を得て、主題を玄関飾りにおいて製作に取り組みました。

参加者のうち常連組は、自分のペースで玄関飾りや輪注連などを組み上げていきましたが、初心者をはじめ不馴れな参加



玄関飾り

者は講師の周囲に陣取り、部分品の所以や作成技能を教わりながら親子協力して作業をする姿も見受けられ、藁の文化を次代に繋ぐひとつの機会となりました。

## 第四区

### 区民マレットゴルフ大会

分館長 大和 孝敬

11月4日、いずみ湖公園マレットゴルフ場にて、区民マレットゴルフ大会を開催しました。



マレットゴルフ

新型コロナウイルス感染拡大のため、講演会や文化祭など、様々な行事を中止せざるを得ない状況になってしまいました。役員で検討を重ねた結果、広々とした自然の中であれば開催可能との判断で、予定より遅れての開催が決められました。区民の皆さんに呼びかけ、老若男女50名が参加して、好プレー珍プレーを繰り広げました。

家族や仲間で構成されたグループは、18ホールを回り、笑い声や歓声がマレットゴルフ場に響き渡って、楽しんでいる区民の皆さんの姿が各所で見られました。



親睦目的とはいえ成績は気になるもので、成績発表は注目的。歓声と拍手の中、表彰式が行われ閉会となりました。

例年、大会後に開催している懇親会は中止となってしまいました。次回はコロナ禍が収束して開催できることを願っています。

## 第五区

### 注連縄飾りとミニ門松講習会

分館長 武居 祐治

12月13日(日)に注連縄飾りとミニ門松講習会を高木公民館で開催いたしました。今年度はコロナ禍での行事となった為、計画段階から当日に至るまで細心の注意を払っての開催



ミニ門松作り

でしたが、毎年恒例の行事に30名の参加がありました。

用意した藁を使い、公民館の外では注連縄飾りを、館内でミニ門松作りを同時に行い、講師の方々のご指導と熟練者の協力の下で、毎年参加の方は手慣れた手つきで作成し、初心者や慣れていない方でもサポートを得ながら無事に完成させていました。

日頃あまり触れる事が少ない藁の感触を確かめ、苦勞して作ったそれぞれの正月飾りは



注連縄飾り作り

愛着の湧く仕上がりととなった事とあります。この様な伝統文化は継続して企画していただきたいと思います。

## 第六区

### 陶芸教室を開催しました

分館長 中野 信一  
なかの しんいち



陶芸教室は六区では例年の行事で毎年楽しみにしておられる方も大勢います。あまりなじみのない事を身近で体験できる事は素晴らしい事で、地域で陶芸をやっておられる方に無理を言

て講師を受けて頂き毎年開催しています。今年度は特にコロナ禍での開催ということで、余計に無理を言ってお前部の、午後の部に分けて2回開催して頂きました。おかげで参加者の皆様も自分の作品作りに没頭出来、良い作品が生まれたものと思われまます。自分は芸術的センスが無い為、参加者の皆様にお配りする粘土を捏ねさせて頂きましたが、それだけでも楽しくできました。皆様の作品は講師の方に芸術的な色を塗って頂いたうえ、焼き上げて頂き、11月に開催の「第六区文化祭」に展示させて頂きました。



陶芸教室

## 第七区

### がんばろう！七区 ささやかな秋祭り

分館長 藤森 則芳  
ふじもり のりよし

慣例であれば、熊野神社例大祭の前夜祭で各団体よりステージ発表、豪華景品が当たる抽選会を実施、当日は各団体より趣向を凝らした屋台が出店され、甘酒を振舞い、伝統の長持ちが練り歩き、例大祭は神事を中心として、前夜祭から大いに盛り上がり祭り一色に染まるひと時が当然であった。



抽選会

コロナ禍の中、手探りながら区民の皆様が笑顔になる社会・文化活動の企画実行に努めた。前夜祭企画とし、盛大では無いが背後の山に音が響き渡り、迫力満点のたった6分間の花火大会。抽選会は、一か月前に全戸対象で抽選番号付き案内書を配布、一週間前に回覧で当選権利番号を発表、例大祭当日に当選権利者による抽選会を行い、三角くじをめぐった瞬間の喜び一憂。



大上映会

発表会は、9月19日の北小運動会、9月26日の社中絆祭(絆太鼓、吹奏楽部発表)をビデオ撮影し、100分間に編集し大上映会。密集を避ける為、シークレットで屋台を出店。お子様対象の外れ無しのかくじが、老若男女が大いに盛り上がる場となった。新たに企画実行したこのひと時は、ささやかながらも祭り一色に染まった。

## 下諏訪町豆知識:知ってる?下諏訪町にある小字(町)名。その③ (最終)

一昨年町制施行125周年を迎えた下諏訪町。町は、町制施行以前から、また以後も少しずつ全体の形を変えて、現在に至っています。広報「クローズアップしもすわ」を作っていく中で、下諏訪町の町名(小字名)は複雑で、どの区にどこの町が属しているのかよく分からない、という声をお聞きます。今回はその第3弾、第6～10区の町名を紹介します。

第6区：萩倉(東組、西組)、樋橋、東俣、町屋敷(1、2、3組)、下屋敷。

第7区：東山田(第1～7)。

第8区：社東町(第1～4)。

第9区：星が丘(第1～3、5)。

第10区：西豊、西浜、高浜、東豊、本郷、五官、富ヶ丘、関屋。

第八区

クイズ&ウォークラリー

分館長 生田 隆史

今年も、コロナの影響でスタートから中止の連続となりました。区全体の行事についても開催中止となり、10月となってしまいました。半分が終了して、公民館としても何もしていないわけにはいかないと、各部長と話し合いをし、新しい企画を開催する事にしました。

「クイズ&ウォークラリー」とし、八区を歩く催し物を開催する事にしました。新しい企画とコロナ環境もあり、各場所にクイズを7か所設置し、クイズに答えて、最終的に、公民館に設置したポストに解答用紙を入れて頂く事としました。

解答にも試行錯誤をして、解答用紙に記入すると『はちくをあるく』となるようにして、歩いて頂くと答えが分かるように工夫しました。



個人で好きな時間に歩いて頂く事で、コロナ環境に配慮した企画となりました。初めての企画でしたが、何もしないより良かったと思います。

第九区

新事業「川柳募集」への挑戦

分館長 宮坂 信行

令和2年の分館活動は、新型コロナ流行により従前の分館活動を行うことが困難と判断し川柳募集事業に挑戦しました。

三密防止を心掛け、募集は応募用紙を区民に全戸配付、作品応募用紙の回収は、公会所に新たに「川柳応募ボックス」を設置し、区民に投稿してもらう方法により、極力接触を避けるよう配慮しました。募集にあたり、優秀作品の表彰や投稿者全員に抽選による記念品贈呈をPRしました。当初は低調な応募数でした。

そこで、区民に対し川柳に関心をもってもらえるよう応募させるよう作品を編集し、川柳作品集として全戸配付しました。

これが奏功し、応募期限(10月末)までに、約50名、200句を超える応募を達成することができました。応募作品は、マスクや星が丘を題材にした秀作が多く、9月、11月及び新春特集号の3回の作品集を発行し、区民の皆様には、川柳を「詠む」「読む」で楽しんでいただけたと思います。



川柳応募ボックス



川柳作品集

第十区

ボーリング大会とワカサギ釣り体験会

分館長 中村 隆志

第十区公民館でも多くの不安と困難での活動となり年間計画を再考しました。

任期の後半に予定していたボーリング大会を感染予防対策を徹底して7月開催とし、多くの区民に参加頂けたことは、困難の状況下での励みとなりました。

また、中・小規模催事に徹底し、開催の是非を各方面と相談しながら進めることと致しました。催事が中止となる中、11月8日(日)に例年の文化祭を開催日数や内容を縮小・工夫を致し、家庭教育講座(「ニュースポーツ講習会」ポッチャ)「諏訪湖底」曾根遺跡「講習会」の2講座とコラボージュする事で開催。

11月29日(日)には「ワカサギ釣り体験会」諏訪湖高浜沖でドーム船3隻を用意しての開催を致し、家族連れ等区民の皆様には、ポカポカ陽気の中で穏やかに楽しんで参加頂きました。地域の伝統及び文化等の困難な中で公民館活動を支援頂けた区民及び関係各位の皆様、スタッフに感謝申し上げます。ありがとうございました。



ボーリング大会



ワカサギ釣り体験会

縁を灯し、思い出に



観音崎珈琲 シマダ ミライ

初めまして。下諏訪町にて自家焙煎珈琲豆屋「観音崎珈琲」を営んでおります。シマダミライと申します。  
皆様は「観音崎(カンノンザキ)」という地名を知っていますか？私が生まれ育った神奈川県横須賀市にあるローカルな海水浴場の名前なんです。今はそんな故郷横須賀の地名を借りて、下諏訪町にて珈琲豆を焙煎しております。

二十歳過ぎの頃にとっても大きな挫折を経験しました。その頃に自分の周りにあつた全ての事を失い、毎日会いに行く人も向かう場所も無い生活を過ごしていました。  
その時にあまりにもする事が無くて甲府の祖父の家に百姓仕事を手伝いに行き、その足で八ヶ岳の麓を訪れました。雑誌で見たとあるお店に行き、そこで覚えたてのブラックコーヒーを格好つけて注文をし、焚き火をしてポケーっとしていました。それからの記憶はあんまりありません。ただ次に思い出せる記憶は「30歳になるまでに八ヶ岳やアルプスの麓で珈琲豆を焙煎して暮らす」と今まで曇って見えた毎日が少し変わって見えた

ことです。  
神奈川県内の珈琲屋を周って門を叩きました。が、修行させてもらえない場所と出会えずにいました。が横須賀市のある喫茶店が「雇ってはあげられないけれど、来てくれれば何でも教えてあげる」と言ってくれました。そのお店に通い、ブレンドを飲みながら、性懲りも無く夢を広げていました。  
珈琲の世界のピラミッドの中でそのお店のブレンドがどの順位にいるのかはわかりませんが、私の中で一番の「思い出」の味になりました。現在観音崎珈琲で取り扱っている「観音崎ブレンド」はそんな私の思い出の味を再現したものです。幾つかの職につき少しだけ貯めたお金と着替えとギターだけ積み、流れ着いた下諏訪町で沢山のヒトとホシスメバという家に出会い、「有難い」経験をさせていた



珈琲豆の焙煎

きました。  
現在はそんな仲間たちと造り上げたキッチンカー「ペロシマダ」で珈琲を淹れ、町内外多くのお店のオリジナルブレンドの作成に携わらせていただいております。とても幸せな生活を送っています。きつと下諏訪町に出会えたのも縁だと思います。  
(出店場所はインスタグラムかフェイスブックをご覧ください。)  
そしてまだまだやりたい事や実現したい事がたくさんあります。いつかはこの下諏訪町内にて私自身が行き先が無く苦しんでいた時に救われたように、いつか誰かに小さな灯りを与えられるような空間(店舗)を創りたい。またそれが「いつかあなた」の思い出のひとつになれますよう「そう」に「そう」思っています。



キッチンカー「ペロシマダ」

写真・花岡 凌



## 町立図書館からのお知らせ



インターネット上で「みんなで作る下諏訪町デジタルアルバム」を公開しています！  
下諏訪町の古い写真が見られるだけでなく、ユーザー登録をすればお持ちの写真をアップすることもできます。  
ぜひ、ご覧ください。

<https://d-commons.net/shimosuwa/>



スマートフォンからはこちら。  
デジタルアルバムへ直接アクセスすることが出来ます。



### ●情報をさがす

キーワードを入力すると、関連した写真が説明と共に表紙されます

| 写真 | タイトル        | 説明                                                                                                               |
|----|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 木落とし        | 御柱祭山出し、木落としの様子                                                                                                   |
|    | 町制施行100周年事業 | 将来の御柱に使えるように「モミの苗木」の植林。この記念事業で植樹したモミの苗木は1000本、その後、モミの苗木の植樹活動は有志の皆さんの手により続けられている。植樹は苗木を植える作業ばかりでなく、鹿の食害から守る対策も伴う。 |



## MESSAGE

### 追想の詩（最終章）

昭和53年10月、周りからはイメージの悪いバンドを組んだり、授業を抜け出してやまびこ団体のバレーボールを観戦したり。今から43年前、高校の恩師、武井貞夫先生が私の就職先を探してくださいました。あれから42年が経ち、まさかこの歳まで勤められるとは思わなかった。感謝しきれない。これも、超怖い野球部監督に恵まれたからか。お陰でどんな苦境にも逃げない気持ちと、縦社会の基礎を叩きあげられた。

令和に入り2年目の10月。忘れもしない最終回ノーマウト。松本伸二監督が私に「次行くよ。」と代打の合図をする。監督の期待に応えたい。スライダーを読み右中間ヘライナーを打ち返すことができた。試合後のミーティングで今日が私にとって最後の試合であることを知った。プロ野球で言う引退試合だ。同時に目頭が熱くなった。

令和3年、世界的にパンデミックが進行する中、人類は新しい年を迎えた。新型コロナウイルスの脅威。まるで映画の世界だ。誰もが想像しえなかった。振り返れば、人類は大きな危機に直面するたび何かにすがってきた。おまじないやお守り、そして妖怪まで。

武漢から一年。人類は確かなコロナ対策を手に入れない。

(本山 祥弘)